

工学部だより

2024.3

No.29



旧米沢高等工業学校本館(国の重要文化財)

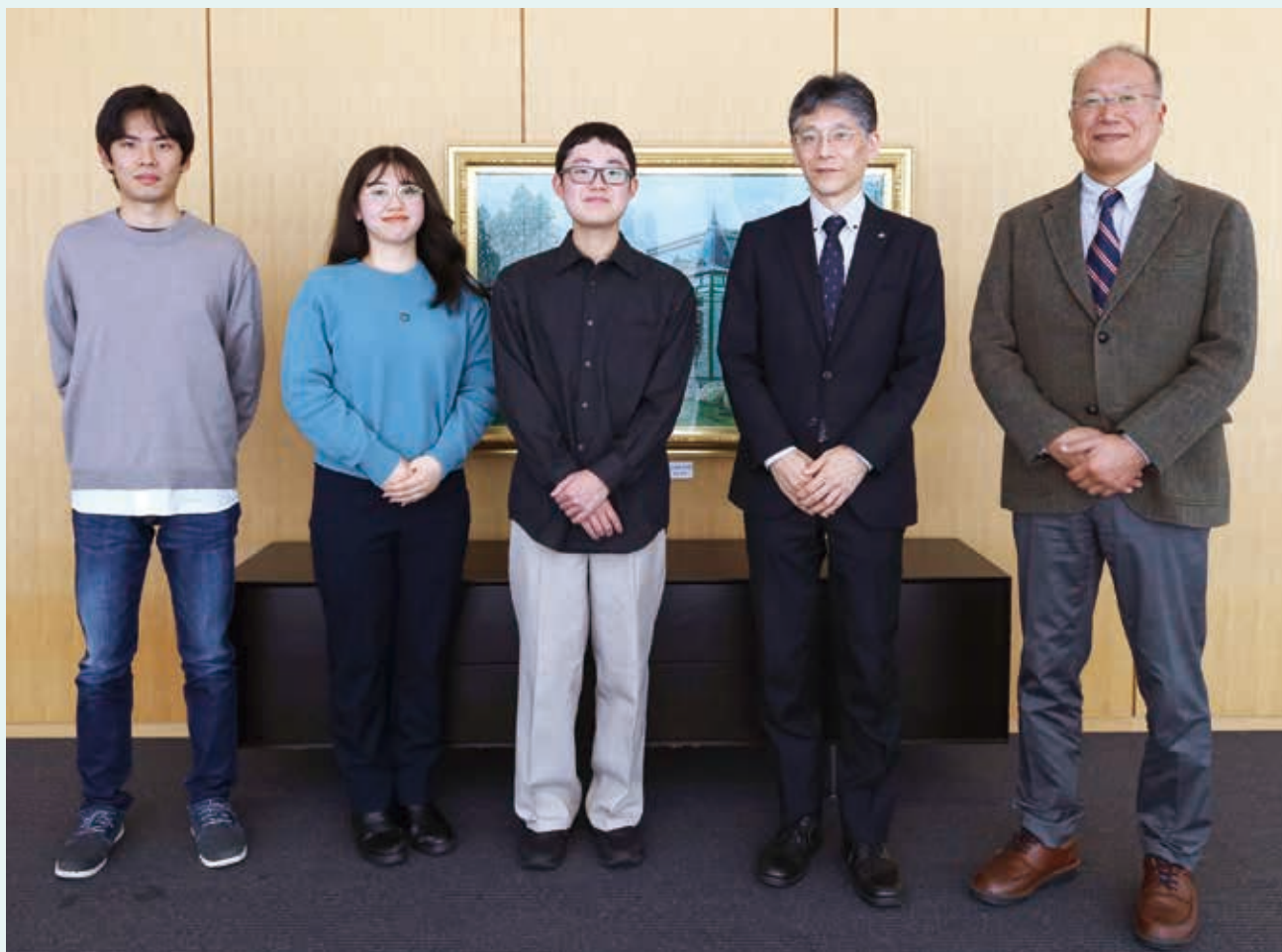
目次

| | | | |
|----------------------|----|-----------------------|----|
| 己と向き合い、仲間と共に。 …………… | 2 | 令和5年度卒業・修了予定者の就職内定・ | |
| ごあいさつ …………… | 6 | 進学先一覧 …………… | 15 |
| 学務委員会だより …………… | 7 | 令和5年度卒業・修了予定者の就職状況 …… | 16 |
| 教務委員会だより …………… | 7 | 山形大学工学部後援会会則 …………… | 17 |
| 山形の未来を切り開け！ …………… | 8 | 令和4年度一般会計収支決算書及び | |
| 学科(専攻)だより …………… | 9 | 令和5年度一般会計収支予算書 …………… | 17 |
| キャリアサポート室だより …………… | 12 | 山形大学工学部父母等の集い | |
| 学生相談室だより …………… | 12 | 今年度(2023年度)実施報告と | |
| セブ島の留学経験 …………… | 13 | 来年度(2024年度)開催予定 …………… | 18 |
| 就職活動と後輩へのアドバイス …………… | 14 | お知らせ …………… | 18 |
| | | 令和6年度工学部年間予定表・後援会通信 … | 18 |

己と向き合い、仲間と共に。

学びを深め、広がる未来に挑む

新たな旅立ちを目前にした学生たち。振り返れば、慣れない大学生活に始まり、コロナ禍を経て、学びと時代の変化の激しい時を歩んできたことでしょうか。ここから得られたもの、そしてどのようにして将来の夢を決断したのか、その思いを伺いました。





ファシリテータ
原田 幸雄

株式会社キャリアクリエイト
山形市生まれ。山形大学人文学部出身。
卒業後アルプスアルパイン株式会社に入社、総務、教育分野を担当し、16年半勤務。40歳を機に帰郷し、2001年株式会社キャリアクリエイトを創業。キャリアカウンセリングスキルをベースにした人材紹介、コンサルタントを行っている。



機械システム工学科4年
小山田 響

山形県出身。工学をもっと学びたいと、山形大学に入学。春より県内企業(生産用機械器具製造業)に入社予定。新しい設計、新しいことへの挑戦に期待している。

原田 就職先、将来の夢を決めるに至った大学4年間の学びの中で、どんな学びが自分にとって有意義でしたか？何がその夢を後押ししてくれましたか？

小野 私は子どもの頃から住宅設計の仕事がしたいと思い、大学に入学しました。特に設計制度の授業は、先生と図面のブラッシュアップをしながら学びが深められ、とても充実していました。もちろん期限もあって辛いこともありましたが、それを含め楽しみながら、この仕事をしたいと思う気持ちは間違いではなかったと確信が持てました。一緒に学ぶ仲間には、設計のみならず、造園や、インフラ整備、街づくりなど、様々な夢があり、コミュニケーションを取りながら建築が果たす役割の視野がぐっと広がりました。

青木 もともと電気自動車を造りたいと思い入学したので、専門科目の電気回路や電気機器など専門的な授業はもちろん印象に残っています。しかし大学1年生以降に始まったキャリア系の授業は特に有意義でしたね。自分のキャリアを想像し、自分は何がしたいのか自己理解をしたり、ベンチャービジネスについて学び、自分が社長になったらどんな風にどんなことでビジネスを広げていくのか、様々考えました。様々な業種の社会人をお招きする授業では、工学部での学びがどう生かせるのかリアルな声を聴き「今の自分には何ができるのか？何がしたいのか？」考えるきっかけになり、進路を決める上で役に立ちました。

小山田 私は大学の取り組み方に自らの目標を後押ししてもらいました。高校生までの私は、勉強はテストの点のために努力していたところがあり、理解して終わりでした。ところが大学では、得た知識をレポートの中で考察していく場面が沢山あったのです。

自分で考えて理解していく学びが本当に楽しかったです。覚えた数式には全て繋がりがあって、製図の授業でも、基準を満たすだけではなく、使う人のことを考えたり、こういう人が使うなら高さを変えようかななど、知識を持って自分で使えるようになる感覚が有意義でした。大学では、自分だけではなく友達と相談して考えることが多く、想像もつかなかった内容や知識を得られ、かつ複数人で取り組める面白さを体感、そこから設計の分野に進みたいと思うようになりました。

黒田 数学や力学を学ぶと、そうやって実践化できますね。すべてを大学で教えているわけではないが、学生さんが仲間との関わりや、得られた知識から自ら考え、気づく環境があるっていいのはうれしいですね。

原田 就職活動をしている学生さんを取り巻く環境は変化し続けています。コロナウイルス感染症の流行からオンラインでの企業説明会も増えましたが、自分たちの学校生活や就職活動はどのようなものでしたか？

青木 私の就職活動は、オンラインがメインでした。自分のことを会社に伝える最初の面接はオンラインで、最終面接は対面でした。おかげで、受けられる企業の幅が広がったと思っています。研究室の先輩の中には、あちこちに出向いて忙しく就職活動をされている方ももちろんいます。しかし私はオンラインで全国各地の企業説明やインターンに参加することができました。もちろん対面による面接やインターンシップも体験しました。社員さんの雰囲気など対面でしか感じることはできない空気感がありますが、オンラインでいろいろな会社を見て自分を見つめることができ、チャンスが広がったと思います。

小山田 私はコロナがなかったら、サークルなどもっと楽しい大学生活もあったのかな、と思う反面、だからこそ深められた友情もあったりと唯一無二の学生生活を送れたと感じています。就職活動については、企業の中や雰囲気を知りたいので、なるべく対面で就職活動ができる場所を探しました。

小野 私はコロナ禍の自粛や、所属する建築・デザイン学科が米沢キャンパスに移行する前の小白川キャンパスでの2年間があって、米沢の環境になれるまで時間がかかったように感じています。就職はもともと地元の栃木にと考えていたので、オンラインの企業説明会を利用していました。栃木県では対面式の合同説明会を行っていたのですが、移動に要する時間や費用を考えると、オンラインを選択せざるを得ない部分もありました。しかしいろいろな会社が一度に見られるという利点もあって、有意義だったと思います。

黒田 コロナ前、日本は他国に比べ特にオンラインの導入が進んでいなかったように思います。リモートの活用はコロナで大きく前進しましたね。皆さんは対面・オンラインの両方の経験者です。それぞれの良さを分かった上で、自由に選択し活用して行ってほしいです。

原田 授業や研究と就職活動の両立において、難しいことはありましたか？

小山田 私が所属する研究室は就職活動を優先させていただいたので、忙しさは感じませんでした。しかし3年生の3月頃の面接では、まだ研究に深く関わっていない状態で、自分がどのようなことに取り組んでいるかとアピールすることができなかったのは痛手でした。企業さんには、今後進めていく研究内容を出来る限りで伝えました。内定の通知を

いただいたのは4年生の4～5月中旬頃です。

小野 私も4年生になる前の春休みまでにほとんどの就職活動を終わらせました。長期休暇や春休みの時期を有効活用してインターンシップや合同説明会に参加していたので、学業との両立ができていたと思います。内定は3年生の3月下旬から4年生の5月頃にいただき、6月中旬頃に入社希望を提出しました。

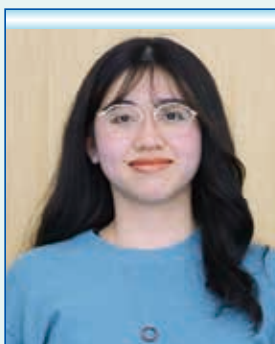
青木 私も夏休みや冬休みを利用し、インターンシップや説明会に参加していました。3年生の後期には履修科目も少なくなり予定が組みやすくなりました。内定は4年生の4月中旬～6月上旬にいただき、就職活動を終わりました。

黒田 本当は卒業研究で学生さんが一番伸びるんですよ。だから今の就職活動スケジュールっていうのは、学生さんの伸びたところの魅力を企業さんに見てもらえていない。それがちょっと問題点だと私は感じます。それでも企業は昨今人手不足で、早く人材を確保したい気持ちがあり、年々就職活動が早まっているようにも思えます。学生さんは複数の内定をもらい、選べる時代だと思います。

原田 大学4年間を山形、米沢で過ごし、県内企業、県外企業に就職を決めた理由を教えてください。

小野 山形という新しい環境で大学生活を送り、地元の良さを改めて認識しました。車社会であるというのは地元も米沢と似ているのですが、冬は全く違います。雪には苦労しましたね。それから大学で学びを深めながら、地元の建築業・住宅メーカーをもっと豊かにしたいという想いも芽生え、地元での就職を考えました。

黒田 大学で学びながら自分がやるべきことを見出し、それを地元に戻って挑戦する、というのは素晴らしい



建築・デザイン学科4年
小野 桜子

栃木県出身。住宅設計を志し、大学で4年間の充実した学びを得る。春からは地元に戻り、県外企業(建築工事業)に入社予定。住宅設計を希望し、資格を取得しながらさらなるスキルアップをしたいと期待している。



情報・エレクトロニクス学科4年
青木 恒平

新潟県出身。大学在学中様々な災害を間近に見聞きし、インフラ整備の重要性に気が付く。春からは県外企業(道路運送固定施設業)に入社予定。次世代高速道路の開発を希望している。



いですね。

原田 私も地元を離れて長く仕事をしていましたが、やっぱり離れてみないと気づけないことはたくさんありますよね。

青木 私はどこで働くかというよりも、どんな仕事をするかが最優先でした。そのきっかけは、身近で起こった地震や大雨などの災害です。もともとは電気自動車を造りたいという思いから大学に入学したのですが、災害によって鉄道が止まり、インフラ施設の大切さに気付きました。そこでインフラ系の企業に入社し、人々の生活を支え、災害に強い街づくりがしたいと思ったのです。私が就職する企業は転勤があり、所属先もこれからです。

小山田 私は大学生活の中で東京や千葉、大阪など様々な都府県に行きましたけれども、やっぱりゆったりとした山形の環境が自分には一番合っているなと思い、地元就職を考えていました。もちろん全く気持ちが揺らがなかったわけではありません。都会での暮らしにももちろん憧れましたが、都会には旅行で、住むのは山形がいいなと思いました。

私が就職する会社は、敷地が広く社内もものすごく広い。発注を受け製造したファクトリーオートメーションを実際に受注者を招き確認してもらうことができるくらいで。そんなことができるのも広大な土地がある山形ならではのようです。

それから山形は食べ物美味しい。新鮮な野菜や、郷土料理などいろいろありますが、なんだかんだで地元に残った大きな理由は食の好みだったのかもしれない。

黒田 私は東京出身で、友人を山形に招くことがよくあります。やっぱりみんな「こんなおいしい物いつ



も食べているの？」ってびっくりしますよね。直売所で新鮮な野菜が安く手に入ったり。地元の人でも気づかない魅力もあると思います。皆さんも家族ができたりして、次のステージになったら、暮らしや土地の良さをもっと発見できる日がくると思いますよ。

原田 必ず仕事を選ぶと暮らしが付いてくるんですよ。皆さんにはこれからいろんなステージがあると思いますが、変わっても変わらなくても、山形や米沢のことをまた思い出してほしいです。

黒田 今日は皆さんが大学で様々な学びを得て、深く考えて、行動をしていたことがわかり嬉しかったです。大学の教員が教えているわけでは必ずしもないのですが、ここで何かを掴んで、1歩先に自分が踏み出すための役割を果たすことが、大学の意味のかなと思いました。

原田 様々なお話を皆さんと振り返って伺いましたが、春からは皆さんもまた1年生。また一つひとつ積み上げていってください。今日は皆さんありがとうございました。





ごあいさつ

工学部長 **黒田 充紀**

工学部後援会会員の皆様には、日頃から教育・修学環境向上ならびに学生の課外活動に対し多大なるご支援を頂きまして心より御礼申し上げます。

令和5年度は教育・研究・課外の全ての活動が正常化し、キャンパスに以前以上の活気が戻りました。一方で、光熱費の急激な高騰に対応するため、大学施設利用は原則として19時まで（図書館は21時まで、それ以外の施設の利用延長は届出制）としております。これまで以上に午前中の時間を有効活用するなど、全学生・教職員の意識改革と協力の下、安定した運営ができております。昨年度、2年間のブランクを乗り越えて復活した学園祭「吾妻祭」（山形県立米沢女子短期大学、同米沢栄養大学との合同開催）は、令和5年度も10月に開催され成功裡に終わりました。

最近の工学部と大学の動きをご紹介致します。令和7年度（2025年度）から大学院理工学研究科に「数理情報システム専攻」（仮称）を設置する予定であることを昨年11月に公表しました。新専攻は、大学院理工学研究科内の理学専攻（小白川）の一部と情報・エレクトロニクス専攻（米沢）を統合・拡充して開設するものです。学部でいうと理学部と工学部の数理情報、情報科学、電気電子工学を専門とする教員がキャンパスを超えて結集し、大学院において高度情報人材育成を行なう体制となります。これまでの理工学研究科は、キャンパスが離れていることから、理学系（小白川）と工学系（米沢）に分かれて教育・研究を行っておりましたが、新しい分野として情報理工学を掲げることとなります。定員は

現時点では88名（現体制から20名増）を予定しています。本学の学部学生のみならず、高専の専攻科、社会人、他大学から多様な人材を迎え入れるべく準備をしております。情報系大学院の拡充は、近い将来に予想される高度情報系人材の不足の解消を目指して国立大学を中心に全国の50以上の大学において計画されています。

学生の皆さんには、大学における学修・研究以外にも、米沢での充実した生活を送っていただきたいと思っております。前身校の米沢高等工業学校設立以来、山形大学工学部は米沢市や市民の皆さんとの距離が非常に近いと言えます。地域イベント、サークル、ボランティア活動等を通じて、学生と地域の方々の交流が広がることを期待しています。米沢地域の特徴として「お祭り」が多いことが挙げられます。米沢上杉まつり（4月）、よねざわ夏まつり（7月）、なせばなる秋まつり（9月）、上杉雪灯籠まつり（2月）などには多くの学生が様々な形態で参加しています。後援会の皆さまにもぜひ足を運んで頂ければと思います。多くの学生が卒業後に活躍する製造業の生産・開発の拠点は、大都市圏外（いわゆる地方）に在る場合が多く、それらの地方の活性化が日本の将来の鍵を握っております。学生の皆さんには、是非学生時代に米沢周辺の地方の現況を感じ取ってもらい、将来の自分のライフデザインに活かして頂きたいと思っております。

教職員一丸となって教育・研究・大学運営に努めてまいりますので、引き続きご支援を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

学務委員会だより

学務委員会委員長 木島 龍 朗

(大学院理工学研究科 化学バイオ工学専攻 教授)



学務委員会は、学部における学生生活の支援、教育カリキュラムの編成、指導などの学務全般に関わるため、否が応でも学生の良い面も悪い面も知るところとなります。最近気づいた学生の気質の変化について一言。最近の学生は、他人が行う“不正”に対して非常に敏感です。もちろん“不正”は悪いことです。最近、授業への出席は学生証のICチップを機械が読み取って管理する方法になっていますが、授業初めにタッチだけして出席にし、すぐに教室から出て行ってしまいう学生もいます。すると、同級生から、すかさず“取り締まってほしい”や“出席点はどうなるのか”と

いった要望や質問がきます。演習や小テストであっても“不正を行っていた学生がいたが、評価はどうなるのか”、“なぜ取り締まらないのか”など、成績に関わることに對しては、特に敏感です。最近、世間一般でも不正等に対して考えられないほどの強い攻撃や非難、バッシングを受けると聞きます。学生の気質の変化も、世の中の風潮をそのままあらわしているだけなのかもしれませんが、昔、学生だった我々は意識改革をする必要があると強く感じます。決して褒めたものじゃありませんが、授業をサボるために友人に代返を頼むなんていう呑気な時代は、もうすっかり過去のものとなってしまったんですね。

教務委員会だより

教務委員会委員長 齊藤 敦

(大学院理工学研究科 情報・エレクトロニクス専攻 教授)



教務委員会は、大学院博士前期課程、及び大学院博士後期課程の運営を担当する部門であり、次世代を牽引する高度な人材を育成するために様々なことに対応しています。最近の改組に関しては2023年度に大学院博士後期課程が改組となり、これまでの5専攻を1専攻にまとめた「先進工学専攻」がスタートしました。また、2025年度に向けて大学院理工学研究科博士前期課程において、「数理情報システム専攻」(仮称)の設置を予定しており、社会が求める高度情報専門人材の育成に向けた全学的な取り組みを予定しています。新専攻は現情報・エレクトロニクス専攻と理学専攻の一部

を融合した専攻となり、山形大学の情報教育リソースを結集し、地域社会との連携を強化した専攻となるよう進めております。また、博士後期課程の取り組みとしては、博士後期学生を経済的にサポートするための取り組みとして、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に申請中であり、「博士課程5年一貫教育プログラム」と継続・連携し、社会を革新する高度博士人材の育成に取り組んでいく予定です。学生たちが自由に学び、自立していく仕組みを作っていくために、教職員一同様々な取り組みを進めてまいりますので、関係の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

山形の未来を切り開け！



この1年の国際交流活動

工学部国際交流センター副センター長 准教授 仁科 浩美

新型コロナウイルスの影響で、海外との対面による交流の実施が困難な状況が長らく続いていましたが、遂に今年度は例年通りの実施となりました。その1つが、学部間協定校タイ・カセサート大学（KU）理学部を会場とした8月の工学部国際連携サマープログラムです。期間中は、本学部から派遣された学部生11名それぞれにKUの学生がバディとしてつき、環境問題や異文化理解に関して共に学びました。参

加者の多くが初海外だったこともあり、その成長には目を見張るものがありました。その他にも「学生大使」派遣プログラムで4名の学部生がインドネシア、ベトナム、モンゴルの協定校を訪れ、視野を広げました。また、研修プログラムを自らが計画して渡航する「海外研修実習」では1名の大学院生がタイで研修を行いました。

工学部国際連携サマープログラム in タイ



KUの学生とのマングローブ植林活動



参加した工学部生

一方、海外からの受入では、科学技術振興機構（JST）によるさくらサイエンスプログラムの助成を受け、10月に大学間協定校の新モンゴル工科大学から、そして1月にはサマープログラムで訪問したKUから、各大学10名計20名の学生らを受入れ、本学の最先端の研究を紹介するとともに本学部の学生との交流を楽しみました。

さらには、初の試みとして教員交流を実施しました。9月に化学・バイオ工学科の皆川真規准教授が学部間協定校であるマレーシアのトゥンク アブドゥル ラーマン マネジメント&テクノロジー大学

（TAR UMT）を訪問し、次いで12月にはTAR UMTのPhang Soo-Wei教授が本学部を訪問、専門の講義や研究に関するディスカッション等を行い、互いの大学について理解を深めました。

本学では、学生のグローバルな体験の機会を拡充するため、海外の学生との交流や国内在住外国人との協働活動、留学生へのチューター活動、国際学会での研究発表といった、多様なグローバル体験プログラムへの参加を今後さらに支援・促進していく予定です。

学科(専攻)だより

高分子・有機材料工学科

学科長 教授 西岡 昭博



本学科では2022年度に栗山卓教授、熊木治郎教授、佐野正人教授、瀧本淳一教授が定年退職され、さらに2023年度には城戸淳二教授、時任静士教授が定年退職されます。長年に渡り本学科において教育と研究にご

尽力頂いた先生方のご退職は寂しい限りですが、同時に先生方が築かれた伝統ある学科を運営、発展させていく責任を感じています。一方で新しい教員として矢野裕子先生、野澤恵理花先生が助教として赴任されました。新進気鋭の女性教員として今後の活躍が期待されます。

学生の活動も活発になっており、学会発表では多くの受賞報告が届きました。また修士学位論文公聴会、卒業研究発表会では日頃の成果を堂々と発表し、成長した姿を見せてくれました。コロナ禍が落ち着き、学生達が益々

活動的になり生き活きとした学生生活を過ごしている姿を教職員一同、感慨深く見えています。

本学科では今後も教職員が一丸となり充実した教育環境を学生に提供すべく努力と工夫を行って参ります。引き続き、本学科の活動に対して保護者の皆様、後援会の皆様からの温かいご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



「ベストプレゼンテーション賞」の表彰式(修士学位論文公聴会) (2023年2月)

化学・バイオ工学科

学科長 教授 遠藤 昌敏



令和5年の夏はとても暑く、山形県内の果物、野菜はだいぶ影響を受けていました。その余波なのか、米沢では年末年始にほとんど雪が降らず、どうなってるんだろうと思っていました。温暖化の影響で海流・気流が変化するせいか

かと思っていれば寒波がやって来て見慣れた冬景色になっています。でも、まだ雪の壁はできていません。(写真)

令和6年は能登半島地震、日航機事故が起こり、いつもとは異なる年始でした。安否確認システムにより工学部の学生の無事が確認できてほっとしたのも束の間で、地震・津波の詳細が報道されるにつれ被害の大きさに驚き、被災された方々のことを想って憂慮しております。

大学は新型コロナウイルス感染症

の指定が5類に引き下げられたこと、感染が抑えられていることなどから、ほとんど日常に戻ってきております。講義・学生実験・就職活動など従来と同じ様に行動できることは本当にありがたく、学生の皆さんには多くのことに取り組んでいただければと思っております。

今後とも本学科の活動に対してご理解いただき、皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



写真左 旧本館南側ケヤキ並木(令和6年1月22日)写真右 同(令和6年1月25日)



情報・エレクトロニクス学科



本学のプレスリリースで既にご存じかと存じますが、国はデジタル分野を成長分野と位置づけ人材育成を推進しており、本学でも新たな教育組織の設置を構想しております。それに伴い、我々の大学院情報・エレクトロ

ニクス専攻は、理学専攻のデータサイエンス分野と共に、募集定員も大幅に増員する形で「数理情報システム専攻」（仮称）として、令和7年度より新たなスタートを切る予定です。新専攻では、各学生の研究テーマへの取り組みに対する支援や指導はもちろんのこと、AIやデータサイエンスに関する科目の充実、実務家教員による講義や企業でのインターンシップ等学外との連携強化により、デジタル技術を活用し社会課題の解決をリードできる人材を養成して参ります。



学科長 教授 深見 忠典

現在、学科内だけでなく、近隣の高専においても説明会を開催し（写真）、多くの方々に周知を図るなど、新専攻設立に向け準備を進めております。今後も学科教職員一丸となり教育研究活動に取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

機械システム工学科



山形大学では2023年2月の一般入試での採点ミスにより、出願倍率が高く受験者が多かった医学部および工学部では本学科において、追加合格および希望者の追加入学という事態が発生しました。大変なご心配をお掛けいただきましたが、本学科では

追加入学への万全な受け入れ態勢を準備し、入学後の細やかな指導にも努めております。

コロナ禍においては様々な制約がありましたが、2023年度は、卒研中間発表会、エンジニアリング創成Ⅱ（3年後期の仮配属研究室での取り組み）成果発表会など、学内での各種発表会も対面形式に戻りました。卒研生・大学院生の学会発表や学外実験等の遠征も増加し、対面での活発な討議や現地でのリア



エンジニアリング創成Ⅱの実習と発表会の様子

学科長 教授 峯田 貴

ル体験を積み上げる機会も復活しています。また、“コロナ明け”となって企業の求人訪問やOB訪問も激増し、機械系の学生への社会の期待も一段と強く感じています。久々に来学してくれた卒業生と会い、元気な顔を見ながら活躍の様子を聞く機会も戻ってきて感慨深い限りです。

教職員一同、今後とも研究と教育の充実に努めて参ります。父母等の皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

建築・デザイン学科

学科長 教授 三 辻 和 弥



米沢キャンパスで活動するようになって2年が過ぎ、気候や環境にも慣れてきたところです。学生の自主的な活動も活発になり、学生による建築サークルでは米沢中心市街地の活性化や空き家活用プロジェクトなどに積極的に関わっています。9月に

は工学部と協定を結んでいる置賜地材地住ネットワークの皆さんのご協力により、置賜の森林での間伐・製材工程・地元の木造建築の見学を含んだ学外研修を行いました。

2024年3月で環境工学



置賜の森で間伐見学の様子



屋根の仕組みを実習で学ぶ

を担当されてきた日高貴志夫教授が退職されます。今後も教員の更新代謝が進むと思います。歴史・意匠、計画、構造・材料、環境工学など幅広い建築分野ですが、これからもそれぞれの分野での研究・教育に精進しつつ、地域に根差した活動を行っていきたく考えています。今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

システム創成工学科

学科長 教授 片 桐 洋 史



2010年に設置されたシステム創成工学科は今年度14期生を迎えました。本学科では定員50名という比較的少人数な特徴を活かして、数学・物理などの基礎科目については少人数制教育を実施し、社会人基礎力の養成にも力を入れています。「システム創成入門」では特許について学びながら学生

自らが特許案を考え、優れたものを文部科学省らが主催するパテントコンテストに毎年応募しています。また、1年次から米沢キャンパスで生活する利点を活か

して、講義だけでは物足りない学生に対しては「チャレンジコース」が提供されています。昨年度は卓上ロボットスタックチャンを製作しました。

令和5年4月にガリポン・ジョゼフィーヌ先生が化学・バイオ工学分野の准教授として教員メンバーに加わりました。10月より1年生の基礎生物を含めて複数の講義を担当しています。充実した学生生活を送れるよう教職員一同努めてまいります。今後とも皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和5年度チャレンジコース：卓上ロボットスタックチャンの制作

キャリアサポート室だより



理工系の就職 令和5年度の総括と今年度の展望

キャリアサポートセンター長 **杉本昌隆**
(大学院有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 教授)

工学部では、各学科の就職担当教員とキャリアサポート室を中心に学生のキャリア形成への支援活動を展開しております。各学科では、就職担当教員を委員とするキャリアサポート室会議を開催し、学部全体での情報共有を図るとともに、学生との個別進路面談や、企業・産業界との情報交換を通して、就職支援に積極的に関わっています。キャリアサポート室では、年間を通して就職相談を開催し、学生個人との面談を通して就職活動の悩みや姿勢、エントリーシート・自己PRの書き方など、細やかなアドバイスを行っています。

令和5年度の企業等への就職状況については、3月の時点で100%に近い内定率に達しました。大学院修了予定者の就職内定についても同様に順調でした。

学部3年生、修士1年生の3月頃から一気に説明会やエントリーシートの提出が集中し6月頃には多

くの学生が内々定をもらっている状況になります。卒研や修士の研究の大事な時期と重なるので、学生の皆さんにはそれまでに準備を進めてほしいと思います。自己分析を行い、自分の価値観、やりたいこと、活躍できそうな職種などの軸を定め、業界や企業について自分なりに調べてみてください。そして、気になる業界や企業があれば、実際に見てみるのが重要です。インターンシップやOB、OG訪問をおすすめします。キャリアサポート室でもこれらの相談にのっています。

人手不足でたくさんの求人がありますが、社会の変化に伴って仕事の形態も大きく変わっていきます。学生の皆さんは、自分の専門的強みを活かしてどう社会に貢献するのか、どのような生き方をするのかを真剣に考え、社会に大きく羽ばたいて欲しいと思います。

学生相談室だより

学生相談室長 **今野博行**

(大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授)



工学部学生相談室は工学部保健管理室内にあります。複数のカウンセラーが常駐し、学生の皆さんの様々な相談事に対応しています。相談内容も多岐にわたりますので、

カウンセラーは個々の事案に対して丁寧にお話を聞きながら時間をかけて解決に向けサポートしています。どんな些細なことでも構いませんので、何か困り事があったら立ち寄ってみてください。

学生の皆さんの中には、学生相談室に直接出向くことに抵抗がある方もいるかもしれません。そのような時は、所属学科・専攻の学科・専攻長やアドバイザー教員、学生サポートセンター学務課学生支援

担当でも相談を受け付けています。また、小白川キャンパスなどの他キャンパスでも同様です。対面が苦手な方はメール、電話、オンラインなどでも構いません。山形大学教職員全員で皆さんをサポートします。

学生相談室では定期的な問診やニュースレターの発行、啓発セミナー等を定期的実施しています。また学生同士の交流会や居場所支援も行っています。コロナ禍から脱しつつあり、対面での講義、実験などが日常になってきましたが、その反動もあるかもしれません。皆さんが充実したキャンパスライフを過ごしていただけるように努めてまいります。

セブ島の留学経験



大学院理工学研究科 博士前期課程 建築・デザイン・マネジメント専攻 2年 **阿部 奈和**

短期留学派遣制度を利用して、5ヶ月間フィリピンのサンカルロス大学に語学留学した経験をご紹介します。留学に興味を持ったきっかけは、中学3年時に両親の仕事の都合でイギリスに住んでいた経験です。ヨーロッパの文化や人々に刺激を受け、将来の志を決めた場所となりました。今回留学を決めたのは、公用語が英語であるフィリピンで語学力を高めたいのはもちろん、発展途上国の貧富の差を実際の目で見てみたいと感じたからです。

フィリピンのセブ島と聞くと最初に美しいビーチをイメージすると思います。ですが実際はセブ市内にビーチはなく、大学のメインキャンパスがある旧市街地は人で溢れ返り、路上にはホームレスやストリートチルドレン、野良犬や猫がたくさんいました。私が週末に参加したボランティアでは、住む場所が

なく、墓地で生活する貧困層のたくさんの子供たちに出会いました。子供たちは無邪気でエネルギーを持っており驚きました。

大学での授業は、最初は先生の言っていることを理解するだけで精一杯でしたが、だんだんと自分に自信を持つことができ、話すことが楽しみへと変化していきました。大学で出会った友人とは、週末はいつも新しい場所へ出かけ、互いの国の文化や価値観の違いなど多くの話をしました。また言語交流会では、セブで働いている日本人や日本語を勉強中のフィリピン人に出会い、刺激的な時間を過ごしました。

留学では、旅行で行くだけでは絶対に味わえない経験ができます。大変なこともあります、その倍以上に人との出会いや新たな発見があり、そこに住む人々の生活風景を感じることができます。私は生涯で忘れられない時間をセブで過ごしました。



就職活動と後輩へのアドバイス



後輩へのアドバイス

工学部機械システム工学科 4年 本田 真菜

私は部活動に所属していた関係で、B3の冬から就職活動を開始しました。はじめはプロフィールやガクチカ（学生時代に特に力を入れた事）を記入すると逆

オファーがもらえるサイトに登録し、いろいろな業界の企業説明会や1dayインターンに参加することから始めました。企業説明会に参加する中で企業の求める人材像と企業の弱み、強みを調べまとめました。すると次に知りたいことは自分がこの企業と相性が良いのか、自分はどの様に企業に貢献できるのかです（多くの場合、面接でもこの点を見られていると思います）。それを知るために、すきま時間で自己分析の本やサイトを利用し、ガクチカで得た自

分の強み、弱みなどを言語化しました。面接練習はYouTubeで面接が上手な方の動画を見て自分に足りないところを学びました。企業説明会（選考）に参加して多くのデータを得て、自己分析で自分について深堀をし、それを繰り返して企業と自分のギャップが少ない企業を選ぶことが就活の一番のポイントだと思います。周りが就活をし始めて焦っている方は、まずは少しでも興味がある企業の説明会に思い切って参加してみましょう。（選考に落ちてもダメージが少ないので笑）はじめは緊張すると思いますがほかの参加者も大学名など関係なくあまり変わりありません。大事なのは自分から行動を起こすことです。これを読んでいる皆さんが少しでも悔いが残らない就活が出来るように応援しています。頑張ってください！



私の就職活動と後輩へのアドバイス

大学院理工学研究科 博士前期課程 情報・エレクトロニクス専攻 2年 山中 智貴

私はM1の夏頃から就職活動を始めました。私が就職活動を始めた時期はコロナも少し収まってきて、対面でのインターンシップ・選考も増え始めていましたが、オンラインでのイベントも多かったため、自分が少しでも気になった業界・会社のイベントに積極的に参加しました。オンラインのイベントは気軽に参加できると思うので、積極的に参加した方が良いと思います。1dayのイベントでも、参加すると早期選考の案内が来たりします。私はインターンシップに参加した会社の早期選考で内定をいただきました。

早期選考の話をしたのですが、就活は早く終わればよいというものでは全くないので、焦らずに就職活

動をしてほしいと思います。自分の決めた進路が、他の誰でもない、自分の意志で決めたものであれば、なんでも良いと思います。周りは気にしないでください。ただ、早く始めた方が選択肢は増えるので、早めに始めることをオススメします。

もし自分の興味がある会社が、先輩があまり行っていない会社だったとしても、チャレンジしてみてください。あなたとその会社の相性が良ければ、どんな会社でも内定をいただけると思います。

面接では自分を変に取り替わず、自然体で臨むのが良いと思います。取り替って会社に入っても、入ってから辛くなると思います。自分に合う会社は必ずあります。あまり気負わず、頑張ってください。応援しています。

令和5年度卒業・修了予定者の就職内定・進学先一覧

1. 工学部

(令和6年3月15日現在)

| コース | 学科 | 就職内定先・進学予定先 | (順不同) |
|---------------------------------|----------------|---|-------|
| 昼 間 ・ A コ ー ス | 高分子・有機材料工学科 | (株)アウトソーシングテクノロジー(2名)、HRクラウド(株)、SWS東日本(株)、TDK(株)、アイダエンジニアリング(株)、国税庁、住友理工(株)、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)、大和製罐(株)、東和薬品(株)、ニチコン(株)、森六テクノロジー(株)、ラピスセミコンダクタ(株)、(株)IDOM、(株)NTKセラテック、(株)かわでん、(株)サガテック、(株)スタッフサービス、(株)住友電装、(株)デンソーエアクール、(株)ニプロ、(株)ミルボン、(株)山形環境エンジニアリング、(株)リクルート、住友潤滑剤(株)、巴工業(株)、山形大学大学院(102名)、北陸先端科学技術大学院大学(2名)、東京工業大学大学院 | |
| | 機能高分子工学科 | 三浦工業(株) | |
| | 化学・バイオ工学科 | NOK(株)(2名)、三和漬物食品(株)(2名)、山形県警察(2名)、(株)スタッフサービス・エンジニアリング(2名)、AGCエレクトロニクス(株)、JFEエンジニアリング(株)、アイジー工業(株)、会津オリンパス(株)、青葉化成(株)、アドバンテック(株)、アルプスアルパイン(株)、エイツーヘルスケア(株)、キオクシア岩手(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、キリンエンジニアリング(株)、クニミネ工業(株)、国土交通省 東北地方整備局、日本原子力研究開発機構、堺化学工業(株)、山栄化学(株)、サンフウ精密(株)、ジーエルサイエンス(株)、昭和機械商事(株)、信越理研(株)、積水テクノ成型(株)、仙台市、デジタルプロセス(株)、東北管区警察局、豊橋市、日新製薬(株)、ニプロ医工(株)、ニプロファーマ(株)、パーソルクロステクノロジー(株)、船橋市、プラス・テック(株)、ポート(株)、前田道路(株)、御木本製薬(株)、三菱電機照明(株)、横浜税関、レオン自動機(株)、日本環境衛生センター、(株)JR東日本情報システム、(株)KSK、(株)TKC、(株)ウォーターウィッシュ、(株)金陽社、(株)クロスリード、(株)サンデー、(株)大気社、(株)第四北越ITソリューションズ、(株)テクノプロ、(株)ナプロ、(株)カールビット、(株)薬物安全試験センター、(株)田邊空機機械製作所、三星工業(株)、住友ケミカルエンジニアリング(株)、住友大阪セメント(株)、全国農業協同組合連合会、日東電工(株)、日東紡績(株)、日本エマルジョン(株)、(有)ドラゴンエンタテインメント、山形大学大学院(57名)、東京工業大学大学院(3名)、東北大学大学院(3名)、北陸先端科学技術大学院大学、名古屋大学大学院 | |
| | 情報・エレクトロニクス工学科 | (株)メイテック(3名)、OKIサーキットテクノロジー(株)(2名)、(株)ソフトクリエイティブホールディングス(2名)、山形航空電子(株)(2名)、SCSK(株)、UTテクノロジー(株)、エクシオ・デジタルソリューションズ(株)、エヌ・デーソフトウェア(株)、キヤノン電子管デバイス(株)、シアール(株)、シャープセンシングテクノロジー(株)、水道機工(株)、セイコーエプソン(株)、ソフトブレーン(株)、テック・マインド(株)、ナプテスコオートモーティブ(株)、日研トータルソリューション(株)、日本システム技術(株)、日本連続端子(株)、パーソルAVCテクノロジー(株)、日立建機(株)、平河ヒューテック(株)、ブリヂストンソフトウェア(株)、ペンテオ(株)、本田技研工業(株)、三菱電気ビルソリューションズ(株)、ミネベアミツミ(株)、山形カシオ(株)、山梨県、(株)DNP情報システム、(株)KSK、(株)MAKERS、(株)NPシステム開発、(株)SIG、(株)アイ・ジー・スクウェア、(株)アイソルート、(株)鷹宮製作所、(株)シーイーシー、(株)スカイウィル、(株)デンソーFA山形、(株)トインクス、(株)ニッセイコム、(株)ニューメディア、(株)日立国際電気、(株)日立社会情報サービス、(株)フォーラムエンジニアリング、(株)マイナビEdge、(株)山形カシオ、(株)日立アドバンスシステムズ、静岡ガス(株)、東海ソフト(株)、東日本高速道路(株)、農林中央金庫、明電システムソリューション(株)、山形大学大学院(75名)、東北大学大学院(4名)、北陸先端科学技術大学院大学(3名)、東京工業大学大学院(2名)、電気通信大学大学院(2名)、横浜国立大学大学院、筑波大学大学院 | |
| | 機械システム工学科 | (株)デンソーFA山形(3名)、スズキ(株)(2名)、セイコーエプソン(株)(2名)、トプコン山形(株)(2名)、トヨタ自動車東日本(株)(2名)、ファナック(株)(2名)、山形航空電子(株)(2名)、(株)ユアテック(2名)、KYB(株)、SCSK九州(株)、TOTO(株)、足立区、アルプスシステムインテグレーション(株)、エスアイアイ・クリスタルテクノロジー(株)、キオクシア岩手(株)、キヤノンイメージングシステムズ(株)、セコム工業(株)、ゼブラ(株)、テルモ(株)、東北エプソン(株)、日本ファインセラミックス(株)、富士電機(株)、本田技研工業(株)、マツダ(株)、ミクロン精密(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)、ミネベアミツミ(株)、山形カシオ(株)、(株)イー・アンド・デイ、(株)エフネット、(株)大塚商会、(株)キリウ、(株)サクラテック、(株)常磐エンジニアリング、(株)ゼネテック、(株)大同キャスティング、(株)タマテック、(株)日産オートモーティブテクノロジー、(株)フォーラムエンジニアリング、(株)ヨドバシカメラ、(株)東京インテリア家具、芝浦機械(株)、朝日システム(株)、東海旅客鉄道(株)、住宅金融支援機構、栃木県、日立チャネルソリューションズ(株)、山形大学大学院(64名)、東北大学大学院(6名)、名古屋大学大学院、筑波大学大学院、北海道大学大学院、Isae ENSMA | |
| | 建築・デザイン工学科 | 大和ハウス工業(株)(2名)、アイジー工業(株)、セルコホーム(株)、トヨタウッドユーホーム(株)、名古屋市、安藤・間、(株)WELLNEST HOME、(株)ウヌマ地域総研、(株)オオバ、(株)オノヤ、(株)ナカノフード建設、(株)ファーストステージ、(株)ファイブズホーム、(株)社設計、宮城県、住友林業、住友林業ホームテック(株)、積水化学工業(株)、仙台市、鈴縫工業(株)、山形大学大学院(3名)、東京大学大学院 | |
| フレックス | システム創成工学科 | AKKODiSコンサルティング(株)、アイジー工業(株)、荒井製作所(有)、荒川産業(株)、コムチュア(株)、三洋機工(株)、東京計装(株)、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)アカデミー、(株)関電工、(株)サンコー食品、(株)ジャパネット、(株)トイファクトリー、(株)ユアテック、山形大学大学院(21名)、東京大学大学院 | |

2-1. 大学院理工学研究科(工学系) 博士前期課程

| 専攻 | 就職内定先・進学予定先 | (順不同) |
|---------------|---|-------|
| 化学・バイオ工学専攻 | 住友大阪セメント(株)(3名)、三井金属鉱業(株)(3名)、住友理工(株)(2名)、ニプロ(株)(2名)、富士電機(株)(2名)、(株)パイロットコーポレーション(2名)、山形県、山形市、DIC(株)、H.U.グループホールディングス(株)、NOK(株)、TOTO(株)、オルガノ(株)、カゴメ(株)、協同薬品工業(株)、千住金属工業(株)、セントラル硝子(株)、大日精化工業(株)、東洋インキSCホールディングス(株)、東和薬品(株)、凸版印刷(株)、日油(株)、ニプロファーマ(株)、日本軽金属(株)、パーソルクロステクノロジー(株)、富士紡ホールディングス(株)、フジミインコーポレーテッド、プライムアースEVエナジー(株)、ブリヂストン(株)、マナック(株)、山形サンケン(株)、(株)ヴィリング、(株)エル・ティ・エス、(株)クスリのアオキ、(株)光陽社、(株)ジーシー、(株)大気社、(株)ダイセル、(株)ダイゾー、(株)トップライズ、(株)ニッセイ、(株)日立システムズ、(株)日立パワーソリューションズ、(株)富士通ゼネラル、(株)東陽理化学研究所、三菱ガス化学(株)、千代田化工建設(株)、川口化学工業(株)、大陽日酸エンジニアリング、東レ・ファインケミカル(株)、東邦化学工業(株)、本田技研工業(株)、山形大学大学院、名古屋大学大学院 | |
| 情報・エレクトロニクス専攻 | アクセンチュア(株)(2名)、スミダ電機(株)(2名)、凸版印刷(株)(3名)、ラピステクノロジー(株)(2名)、(株)KOKUSAI ELECTRIC(2名)、(株)ソフトクリエイティブホールディングス(2名)、(株)日立アドバンスシステムズ(2名)、三菱電機エンジニアリング(株)(2名)、AGC(株)、NOK(株)、TDK(株)、アルプスアルパイン(株)、いすゞ自動車(株)、エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)、エヌ・デーソフトウェア(株)、山形大学、鈴与シフト(株)、セコム工業(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、第一貨物(株)、テルモ(株)、東芝インフラシステムズ(株)、東日本NSソリューションズ(株)、フォース(株)、富士電機(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、レオン自動機(株)、ローム(株)、(株)DONUTS、(株)NTTデータ東北、(株)SJC、(株)アシスト、(株)アドバンス・メディア、(株)アルファ・ウェーブ、(株)インフィニットループ、(株)共和電業、(株)クレソフト、(株)ディスコ、(株)デンソーFA山形、(株)ニコン、(株)パナソニックシステムネットワーク開発研究所、(株)パルスパワー技術研究所、(株)ピッツ、(株)神戸製鋼所、(株)仙台銘板、(株)村田製作所、新電元工業(株)、東京エレクトロン(株)、東北エプソン(株)、東洋製罐ホールディングス(株)、理研計器(株)、山形大学大学院 | |

| | |
|------------------|---|
| 機械システム工学専攻 | 住友重機械工業(株)(2名)、トヨタ自動車東日本(株)(2名)、富士電機(株)(2名)、(株)タンガロイ(2名)、(株)日産オートモーティブテクノロジー(2名)、SMC(株)、SUBARU(株)、THK(株)、アネスト岩田(株)、アプライドマテリアルズジャパン(株)、アルプスアルパイン(株)、アルプスシステムインテグレーション(株)、沖電気工業(株)、海上自衛隊、川崎重工(株)、ギガフォトン(株)、キリンホールディングス(株)、工機ホールディングス(株)、コクヨ(株)、山洋電気(株)、シチズン時計(株)、スズキ(株)、スミダ電機(株)、住友精密工業(株)、セイコーインスツル(株)、セイコーエプソン(株)、タカラスタンダード(株)、タキロンシーアイ(株)、東京エレクトロン(株)、東北電力(株)、東洋エンジニアリング(株)、日本軽金属(株)、ネットムーブ(株)、バーチャレクス・コンサルティング(株)、パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション(株)、パナソニックコネクタ(株)、東日本旅客鉄道(株)、ファナック(株)、富士フイルムソフトウエア(株)、本田技研工業(株)、三菱電機特機システム(株)、三菱電機(株)、八千代工業(株)、山形カシオ(株)、ヤマハ発動機(株)、横浜ゴム(株)、(株)Hajimari、(株)IHI、(株)LIXIL、(株)NSD、(株)荏原製作所、(株)貴瞬、(株)クレディゼン、(株)ジェイテクト、(株)スカイウイル、(株)ニデック、(株)八光、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所、(株)日立製作所、(株)プイテックス、(株)プロテリアル、(株)モビテック、(株)ヨコオ、(株)日立国際電気、福島工業高等専門学校、東レエンジニアリング(株)、武蔵精密工業(株) |
| 建築・デザイン・マネジメント専攻 | 東北電力(株)、(株)久慈設計、(株)シェルター、(株)鈴木建設設計事務所、金蛇水神社、積水ハウス(株)、東日本旅客鉄道(株)、神戸大学大学院 |
| ものづくり技術経営学専攻 | 大山精機 |

2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

| 専攻 | 就職内定先・進学予定先 | (順不同) |
|------------|---|-------|
| 有機材料システム専攻 | キオクシア(株)(4名)、NOK(株)(3名)、大日本印刷(株)(3名)、アキレス(株)(2名)、キヤノン(株)(2名)、新光電気工業(株)(2名)、住友理工(株)(2名)、デクセリアルズ(株)(2名)、凸版印刷(株)(2名)、日東紡績(株)(2名)、三ツ星ベルト(株)(2名)、(株)JSP(2名)、(株)エンプラス(2名)、(株)クレハ(2名)、(株)タムラ製作所(2名)、(株)フジクラ(2名)、JSR(株)、YKK(株)、アイカ工業(株)、会津オリンパス(株)、アルプスアルパイン(株)、ウエスタンデジタル合同会社、オカモト(株)、京セラ(株)、高圧ガス(株)、ゴールドパック(株)、信越化学工業(株)、信越ポリマー(株)、世紀(株)、ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、デンカ(株)、東京エレクトロンソリューション(株)、東京エレクトロン宮城(株)、東芝マテリアル(株)、東ソー(株)、東邦化学工業(株)、東洋紡(株)、豊田合成(株)、トヨタ自動車(株)、ニチコン(株)、日産自動車(株)、日星電気(株)、日東ベスト(株)、日本原子力研究開発機構、日本製紙クレシア(株)、浜松ホトニクス(株)、林テレンプ(株)、日立造船(株)、ヒロセ電機(株)、富士紡ホールディングス(株)、古河電気工業(株)、ボッシュ(株)、三井化学(株)、三菱電機(株)、ミネベアミツミ(株)、未来工業(株)、横浜ゴム(株)、(株)GSIクレオス、(株)T&K TOKA、(株)エースジャパン、(株)木内計測、(株)クラレ、(株)スリーボンド、(株)大協精工、(株)大昌電子、(株)ドコモCS、(株)トップ、(株)ニューフレアテクノロジー、(株)パイロットコーポレーション、(株)半導体エネルギー研究所、(株)日立ハイテク、(株)日立パワーソリューションズ、(株)山形銀行、(株)ユポ・コーポレーション、(株)レゾナック、(株)高津製作所、大内新興化学工業(株)、山形大学大学院(6名) | |

3-1. 大学院理工学研究科(工学系)博士後期課程

| 専攻 | 就職内定先・進学予定先 | (順不同) |
|--------------|--------------|-------|
| 物質化学工学専攻 | 花王(株)、東洋紡(株) | |
| 電子情報工学専攻 | 有職者(1名) | |
| ものづくり技術経営学専攻 | 有職者(1名) | |

3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

| 専攻 | 就職内定先・進学予定先 | (順不同) |
|------------|---|-------|
| 有機材料システム専攻 | アイカ工業(株)、三菱ガス化学(株)、日本ゼオン(株)、理化学研究所、東京都立産業技術研究センター | |

令和5年度 卒業・修了予定者の就職状況

(令和6年3月15日現在)

| 学科・専攻別 事項 | 工学部 昼間・Aコース | | | | | | | 工学部 フレックスコース | | 博士前期 | | | | | | | 合計 | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|--------------|-----------------|-----------|-------------|------------|-----------|-----------|-----------|----------|-------------|--------------|-------------|
| | 有機材料分子工学 | 高性能高分子工学 | 化学・バイオ工学 | 情報・エレクトロ | 機械システム工学 | 建築・デザイン | 計 | システム創成工学 | 計 | 有機材料専攻 | 工学専攻 | 情報・エレクトロ | 機械システム専攻 | 建築・デザイン専攻 | 経営学専攻 | ものづくり技術 | | 計 |
| 卒業・修了予定者数 | 135 (20) | 2 (0) | 133 (51) | 155 (9) | 132 (4) | 32 (16) | 589 (100) | 37 (5) | 37 (5) | 104 (10) | 66 (15) | 62 (2) | 72 (6) | 12 (5) | 1 (0) | 317 (38) | 943 (143) | |
| 概況 | 就職希望者数 | 27 (2) | 2 (0) | 68 (31) | 59 (6) | 56 (3) | 234 (54) | 14 (4) | 14 (4) | 98 (10) | 61 (14) | 60 (2) | 72 (6) | 8 (4) | 1 (0) | 300 (36) | 548 (94) | |
| | 自営希望者数 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | |
| | 進学希望者数 | 105 (17) | 0 (0) | 65 (20) | 90 (2) | 74 (1) | 9 (3) | 343 (43) | 22 (0) | 22 (0) | 6 (0) | 2 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 3 (1) | 0 (0) | 12 (1) | 377 (44) |
| | その他 | 3 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 6 (1) | 2 (0) | 1 (1) | 12 (3) | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 3 (1) | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 5 (1) | 18 (5) |
| 就職内定者数 | 27 (2) | 2 (0) | 68 (31) | 59 (6) | 56 (3) | 21 (12) | 233 (54) | 14 (4) | 14 (4) | 98 (10) | 61 (14) | 60 (2) | 72 (6) | 8 (4) | 1 (0) | 300 (36) | 547 (94) | |
| 未内定者数 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | |
| 内定率(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 95.5 | 99.6 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 99.8 | |
| 就職決定率(%) | 90.0 | 100.0 | 100.0 | 90.8 | 96.6 | 91.3 | 94.7 | 93.3 | 93.3 | 100.0 | 95.3 | 98.4 | 100.0 | 88.9 | 100.0 | 98.4 | 96.6 | |

[注]()内の数字は女子を示し内数である。就職内定率：就職内定者数÷(就職希望者数+自営希望者数)
就職決定率：就職内定者数÷(卒業・修了予定者数-進学希望者数)である。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|------------|
| 県内就職内定者数 | 3 (0) | 0 (0) | 7 (3) | 10 (1) | 11 (0) | 1 (1) | 32 (5) | 2 (1) | 2 (1) | 4 (0) | 4 (2) | 5 (0) | 2 (1) | 2 (1) | 1 (0) | 18 (4) | 52 (10) |
| 県内就職内定率 | 11.1 | 0.0 | 10.3 | 16.9 | 19.6 | 4.8 | 13.7 | 14.3 | 14.3 | 4.1 | 6.6 | 8.3 | 2.8 | 25.0 | 100.0 | 6.0 | 9.5 |

山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

(1) 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者

(2) 工学部に勤務する教職員

(3) 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部内に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成

(2) 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成

(3) その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長

(3) 理事

(4) 監査

(5) 幹事

第7条 役員の出選は、次のとおりとする。

(1) 会長は、会員の推挙による。

(2) その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員任期は次のとおりとする。

(1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。

(3) 理事は、本会の重要案件を審議する。

(4) 監査は、本会の会計を監査する。

(5) 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたと
きは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

(1) 会務の報告

(2) 事業計画に関すること。

(3) 予算及び決算に関すること。

(4) 会則の改正に関すること。

(5) 会長の推挙に関すること。

(6) その他理事会において必要と認められた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるものとし、保
護者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

(1) 会員名簿

(2) 役員名簿

(3) 会議録

(4) 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育
後援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費
は、次のとおりと定める。

(1) 学部学生の保護者 26,000円

(2) 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円

(3) 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円

(4) 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円

(5) 本会の趣旨に賛同する者

令和4年度 一般会計収支決算書 及び 令和5年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位:円)

| 項 目 | 令和4年度 | | | 令和5年度 予算額 |
|-------|------------|------------|------------|--------------|
| | 予算額 | 決算額 | 差引増減額 | |
| 会 費 | 22,509,500 | 20,143,500 | △2,366,000 | 20,143,500 |
| 雑 収 入 | 2,000 | 10,205 | 8,205 | 200 |
| 繰 越 金 | 9,707,219 | 9,707,219 | 0 | 8,927,381 |
| 合 計 | 32,218,719 | 29,860,924 | △2,357,795 | 29,071,081 |

支出の部

| 項 目 | 令和4年度 | | | 令和5年度 予算額 |
|----------------|------------|------------|------------|--------------|
| | 予算額 | 決算額 | 差引増減額 | |
| 1 学科厚生補導費 | 1,301,900 | 1,304,000 | △2,100 | 1,304,000 |
| 学部学生指導費 | 587,200 | 547,200 | 40,000 | 547,200 |
| 学科行事等補助費 | 714,700 | 756,800 | △42,100 | 756,800 |
| 2 一般厚生補導費 | 3,661,500 | 3,070,818 | 590,682 | 3,661,500 |
| 国際交流関係補助費 | 500,000 | 8,262 | 491,738 | 500,000 |
| TOEIC-IPテスト補助費 | 1,000,000 | 941,350 | 58,650 | 1,000,000 |
| 学務関係補助費 | 1,000,000 | 1,175,046 | △175,046 | 1,000,000 |
| 保健管理関係補助費 | 30,000 | 14,660 | 15,340 | 30,000 |
| 理容部運営費補助費 | 200,000 | 0 | 200,000 | 200,000 |
| 基盤教育事業後援費 | 931,500 | 931,500 | 0 | 931,500 |
| 3 進路対策補助費 | 20,000 | 0 | 20,000 | 20,000 |
| 4 学生研究助成費 | 800,000 | 601,100 | 198,900 | 800,000 |
| 5 課外活動補助費 | 1,000,000 | 245,000 | 755,000 | 1,000,000 |
| 6 一般体育設備等補助費 | 100,000 | 4,740 | 95,260 | 100,000 |
| 7 厚生施設等環境整備補助費 | 500,000 | 64,320 | 435,680 | 500,000 |
| 8 研修行事等関係補助費 | 150,000 | 0 | 150,000 | 150,000 |
| 9 学部渉外関係補助費 | 500,000 | 2,060 | 497,940 | 500,000 |
| 10 大学行事補助費 | 2,000,000 | 1,258,050 | 741,950 | 2,000,000 |
| 11 運 営 費 | 4,315,000 | 2,383,455 | 1,931,545 | 4,315,000 |
| 広 報 費 | 1,500,000 | 1,624,379 | △124,379 | 1,500,000 |
| 会 議 費 | 150,000 | 9,980 | 140,020 | 150,000 |
| 通 信 費 | 10,000 | 5,380 | 4,620 | 10,000 |
| 事 務 費 | 1,500,000 | 642,066 | 857,934 | 1,500,000 |
| 旅 費 | 50,000 | 0 | 50,000 | 50,000 |
| 地区別説明会費 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 学園都市推進協議会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 雑 費 | 5,000 | 1,650 | 3,350 | 5,000 |
| 12 積 立 金 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 2,000,000 |
| 13 施設協力金 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 | 10,000,000 |
| 14 予 備 費 | 5,870,319 | 0 | 5,870,319 | 2,720,581 |
| 合 計 | 32,218,719 | 20,933,543 | 11,285,176 | 29,071,081 |

山形大学工学部父母等の集い 2023年度実施報告と2024年度開催予定

■令和5年度 実施報告

| 地域 | 開催日 | 申込人数 |
|----------|----------|------|
| 対面開催(米沢) | 10月7日(出) | 185名 |
| オンライン開催 | 11月4日(出) | 222名 |

※令和6年度の開催日については、別途郵送にてご案内いたします。

お知らせ

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、
こころの悩み

学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、休・退学、転学部・転学科、
科目等履修生、TA

学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

令和6年度工学部年間予定表

前期(令和6年4月1日～9月29日)

授業期間：4月8日～7月29日

定期試験・まとめ：7月16日～18日、26日、
30日～8月1日

補講期間：7月23日～25日、
8月2日、5日

夏季休業：8月6日～9月29日

9月学位記授与式：9月27日

後期(令和6年9月30日～令和7年3月31日)

授業期間：9月30日～2月3日

10月入学式：10月1日

開学記念日：10月15日

冬季休業：12月25日～1月10日

定期試験・まとめ：1月28日～30日、2月7日、
10日、13日、17日

補講期間：2月4日～6日、12日、14日

春季休業：2月20日～3月31日

学位記授与式：3月20日

【後援会通信】

工学部後援会では、ホームページに各種お知らせを掲載しております。

山形大学工学部父母等の集いの開催案内につきましても、開催日が近づきましたら、ホームページに掲載し、参加申込みを受け付けます。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。